

VIVIENNE'S DIARY - 2014 年 6 月

しっかり生きなさい—ジュリー・カヴァナ著書ルドルフ・ヌレエフの伝記から文章を抜き出して、アートが文化にどう役立つのか、またその文化が人間の特質を明らかにして来たことを書いてきました。この素晴らしいバレエダンサーは世界を驚かせました。彼は人生を自分の才能に捧げたのです。彼は1990年代、54歳の時にエイズで亡くなりました。

月末に向けて、バレエの歴史を少し加えて、書き終わりました。
読んで下さい。

私の日記を読む事によって、少しずつ皆さんも本物の文化というものが見えるようになってくるでしょう。私の狙いは、皆さんに私の異端的物の見方を紹介することです。それによってこの消費社会から皆さんを守ります。そうすることで、皆さん方は決してこの慢性的な病気に感染しなくなるでしょう。アートと文化の追求は、健全な心と体をもたらします。そしてそれは消費社会の解毒剤となるでしょう。皆さんが本物を追いかける時に、消費はただ必要とされないのです。

酷い事に、人は本物の文化と人気のある文化の違いを知りません。人気がある文化は実際には消費文化です。

このように、一般的に人間は考えない生き物です。しかし私たちは消費したくして窒息しそうな状況（ブランケットの下で、物を吸い上げボタンを押すだけの状況）に順応しているのです。消費の教義は、いつでも最も効果的なプロパガンダで、今日、ほとんどの人々が順応するものなのです。それが気候の変化を引き起こしています。私たちはそれを止めなければなりません。

Art Covers Unite! 

通常業務—現在のコレクションが完成する今、2015年冬のコレクションに取りかかっています。現在の物は来年の春に店頭並びますが、それらを今見せるのです。メンズが今月、そしてレディースの2つのコレクションである「レッドレーベル」と「ゴールドレーベル」は9月か10月です。いくつか社交行事がありますが、全てを述べる時間がありません。仕事はファッションと Climate Revolution とに分かれています。

6/5 (木) : アンドレアスが 10 日 (火) まで仕事でイタリアに。合間にビーチでの週末もはさんで。

6/7 (土) : 息子のジョーが自宅に来ました。フラッキングについて私が事実を正しく把握しているかを教えるためです。フラッキングツアーについても話します。イギリスの 5 つの都市でのディベートを計画しました。しかしフラッキング賛成の政治家やビジネスマンで、ディベートに参加したいと熱心に言ってくれていた人達が一人ずつ欠席を申し入れてきました。彼らはディベートに負けるのが怖いのだろうとしか私たちには思えません。こちらには権威ある科学者やリズのような若い女性キャンペイナーがいます。リズはフィラデルフィアがフラッキングのせいでも有毒となったその知識をくれるでしょう。ブラックプール出身のティナ・ルイズはフラッキングがそこで人工地震を起こして以来、反フラッキングの運動をしています。彼女は多分他の誰よりもフラッキングの知識があるでしょう。このツアーはジョーと私たちの友人ジェイミーによってまとめられました。ジェイミーは「リクレイム・ザ・パワー」という活動団体に属しており、私が初めて彼に会ったのは、ロンドン占拠の時でした。今ツアーでは、ここでフラッキングが起きた場合にどんな惨事が起きるかという情報を人々に与えています。それと同時に政府は何も気にかけていないこと、そして多分彼らが押し通そうとしていることが、どんな結果をもたらすかについては知りもしないだろうということを明らかにしています。まだ、75%の人々は困惑しており、そのうちのほとんどの人たちはフラッキングが何なのか知りません。

政府が完全に馬鹿なだけではありません。フラッキングをすること自体が不可能なのです。それなので政府はフラッキングをすることができないでしょう。しかし政府は善良な人々へも働きかけなければならないので、私たちが勝つところを見せなければなりません。

6/9 (月) : ツアーはグラスゴーから始まりました。私はクールアースのマシュー・と、カンヌのイベントで会い、このチャリティーの貢献に興味があると言ってくれている人たちとのミーティングがあったので、ロンドンに残りました。まだ彼らから答えはもらっていません。そして皆さん、どうかクールアースのウェブサイトを見て下さい。彼らの仕事ぶりを知るだけでも力になりますから。「知識は力なり」全ては繋がっていて、それが皆さんの行動に影響します。例えばデモに参加するきっかけとなるかもしれないし、違う政党に投票するかもしれない。もしくは自分自身が何か直接的に行動を起こすかもしれません。

グラスゴーでのディベートはうまくいきました。たくさんのアイディアに、コミュニケーションの仕方も学んでいます。リズがテリー・グリーンウェルという農家に起きたことを撮った映画を見せてくれました。テリーの土地の水は汚染され、珍しい形の脳腫瘍を煩いました (フラッキングは、地下の岩の中に眠った放射性物質を放ちます。それが水を伝って土壤に顔を出すのです)。テリーだけでなく、近隣の人達も被害を受けました。その夜、リズは

テリーが亡くなった事を聞かされました。



6/10（火）：私はノッティンガムからこのツアーに参加しました。私の映画を撮っているローナと一緒にです。私たちは地方のメディア向けにインタビューをこなしました。私たちのキャンペーンが、ソーシャルメディアによって広がっていったのは、この時代の現象と言えます。私はパネリストではありませんが、ディベートの最後に話をします。ノッティンガム・コンフェランス・センターで働く男の子に、トイレがどこにあるか聞いた後、彼は私に「フラッキングは大丈夫だと僕は信じていました。だけど、今日来ている人達が、本当に心配していること、そして政府はそれに聞く耳持たないことが分かり、思いを変えました。」と言ってきました。

私たちはみんな疲れきっていました。しかし楽しくもありました。私たちのチームは有機的に集まった小さな集団です。お互いに会うと、すべきことが分かってそれがきちんと納まるのだとジョーは言います。—そしてジェイミーが私たちをまとめてくれました。

チームはミーティングをし、問題について分析し、話し合いを行いません。—私たち自身がメディアであり、アクティヴィストであるのです。全員でヴァンに乗り、ツアーをしています。ローナと私は眠りにつきました。私は大勢の中で社交的にするなんて好きではないわと思っていましたが、チームの誰もがとても素敵なのです。それが最高のことでしょう。運転手はブライアンです。明日はマンチェスターで朝を迎えます。

6/11（水）：マンチェスターから 12 マイル離れた場所で私は生まれました。私の生まれた村から、子供の頃バスに乗ってルイズのデパートまでサンタを

見に来ていました。中心にある円形上の吹き抜け階段の高さにまで届くクリスマスツリーがありました。私はそこで買い物をし、ダンスをしていました。—いつも何か特別な時に行っていたのです。私たちは学校行事でフリー・トレード・ホールを訪れました。生徒全員が制服を着て、ハレ・オーケストラに耳を傾けました。一幕間に、他の学校の制服を、特に男子生徒を見に歩き回ったものです。これが今ではホテルへと変わってしまいました。そのホテルで私たちは今夜ミーティングをする予定です。

しかしながら日中はクライメイトキャンプをしている人達を訪れました。今回はバートン・モスです。2、3年前にティナ・ルイズがこのキャンプを始めた時は、4つのクライメイトキャンプがフラッキング反対運動をしていたようですが、今ではそれが国を渡って180グループと3つのキャンプ以上もあるそうです。こういった人達が私たちの基盤であり、政府の意図に反対する礎でもあります。彼らの所に行ってみて、会話をしてみてください。たくさんのお話を学べますし、お茶も入れてくれますよ。皆さんが、フラッキングを止めたいという彼らの決意を助けることとなるでしょう。

私たちのシャツを着用したグループを始めた、ジョン・マックナマラはキャンプでガーデンを始めました。私はこういった付き合いを楽しみました。



この夜、マンチェスターは大勢の人でいっぱいとなっていました。ついに私たちに全てにおいて反対する人達が二人現れました。そして不運にも聴講者が長いお説教を二人にしてみました。かなりたくさんの「資本主義反対」、そして「なぜ政府を気にするのか？表に出ようぜ！」といった騒ぎがありました。（私たちは二人には感謝しています。そのうち一人は事実にご貢献してくれました。）終わった後、グループではどうやったら今後もっと冷

静になれるかを話し合いました。私は眠りについたので、彼らがどういう決断を下したかは知りません。その夜、テレビで、私の発言をいくつかピックアップし、政治家たちがフラッキングは良い事だ、そして他の要人が「彼女はセレブだろ。我々の代弁者となる権利はないよ。」と言っていたと、誰かが教えてくれました。メディアの人達って、人はこんな馬鹿なことを聴くほど救いようもいって本当に思っているのかしら？

6/12 (木) : スワンジー。輝かしい日です。ビーチは信じられないほど美しく、ホースシューベイの内の砂浜。人はサウスウェールズのビーチはどれもノックアウトされるほど素晴らしいと言います。(私はあえてこの言葉を使いました。なぜならば吹き飛ばされるほど美しく、そこに立っているだけでもう一度あなたを元の世界へ戻してくれます。すぐに自分を取り戻します。) かつてここでリゾート地が栄えたことには何の疑いもありません。私たちはジョージ・ホールを探索しました。：壮大で完全なアールデコデザインです。私たちのイベントはここで行なわれました。

午後、リズと一緒にビーチに行きました。歩いてしゃべって、鞆を仕事にビーチで休憩をとっている男達に預けてきました。信頼から発する美しさがそこにはあります。若い人達にはそれがあり、リズもそれを持ち続けるでしょう。彼女があなたを見るとき、彼女は心を誰にでもオープンに開いてくれます。

専属の写真家のキーが、宣伝用にウェールズの旗を私にまともさせて写真を撮りました。それから私はジョーと一緒にインタビューをしに戻りました。私はこれら地方のインタビューを楽しみました。同時に愛する息子とたくさんの時間を過ごせることに感謝します。



協力的で、情熱的なミーティングが繰り広げられました。今回二人の地方議員が参加してくれましたが、彼らは反フラッキング派です。まだフラッキング賛成派は来てくれません。終わってインド料理屋さんへ行きました。

6/13（金）：ハマースミスで目を覚ましました。別れを告げ（みんな大好きよ）、地下鉄の駅へ向かって歩きました。7時半までには家に着きました。

6/16（月）：ウェストミンスター・セントラル・ホールで、最後のツアーです。<https://www.youtube.com/watch?v=xr3D-K55q8o>

6/19（木）：バッキンガム宮殿に、チャールズ皇太子のドローイングスクール支援のための晩餐へ。女王が収集するデッサンがいくつか展示されていました。ホルバイン、クロード、25歳で死んだラファエル、そして89歳で死んだミケランジェロ。これら最後に挙げた二人のイタリア人は、私が次に読む予定のフランス人作家ラブレーと同時代に生きていました。（どの男もルネッサンス時代です。）

ミケランジェロはラファエルとは本当に異なっていました。ラファエルのデッサンを3次元の線から説明しますね。彼は見ると同時に描いていました。

一すなわち魂が手を動かすのです。ミケランジェロは肉体を使ったデッサンを描いていました。肉付き、皮膚や骨まで全てによく気付き、それらを最も強い線を使って極上の陰で囲って組み立てていきました。その線は一度見たら全てが把握できるように、生きて見えるようにと囲っていたのです。ミケランジェロは生きている人間を見せてくれます。ラファエルはドラマティックな絵を描きますが、全ては見せてくれません。その代わりに彼のデッサンの中に溶け込んでみるように描かれています。

ドローイングスクールの生徒達は、そのデッサンを手に取ってみることが許されていました。そうならばそれらを生徒達が模写する許可も出されていたかは分かりませんが、巨匠になる唯一の方法は、傑作を模写することです。



ラファエロ



ミケランジェロ

6/20（金）：メンズのショーのためにアンドレアスとミラノに。今季、レッドレーベルの（レディース）の新作もショールームで準備されていました。見るのが怖かったです。例えもし素晴らしい出来であったとしても、見るまで分からないでしょう。今までに一度も適切な生地で作られた服を見た事はありませんし、どんな出来栄なのか分からないのです。（ゴールドレーベルはサンプルの全てを私たちが作っていますから違います。一違いが

ある理由は、レッドレーベルは8月のホリデーに入る1ヶ月前に売られますが、—もっとたくさん売るために—しかしゴールドレーベルは1ヶ月後に売られるからです。)

アンドレアスと取引をし、彼がレッドレーベルを見て、私はメンズのショーのスタイリングをしました。ショーのモデルは既に決まっていた。—ヤスミンが準備をしてくれていました。

その翌日、アンドレアスと私は仕事を入れ替え、アンドレアスがメンズのショーの仕上げをし、私はレッドレーベルのバイヤー向けのプレゼンを、ショールームでするため、レッドレーベルに従事しました。ショーは後にロンドンで行います。

アンドレアスは、レッドレーベルの出来は素晴らしいと思っています。

こちらはメンズのショーのプレスリリースです。トレイシー・ウォーセスターの、豚の工場式農場経営を止めるキャンペーンを奨励しました。



Vivienne Westwood

MAN

春夏 2015

今は中年期に差し掛かったトレイシー・ウォーセスターが、数年前に豚への酷い扱いや、工場式農場のために起きる不効率性や公害を暴くために飛行機に乗ってポーランドへ行ったことを考えてみて下さい。

「ピッグ・ビジネス」という映画でその内情全てを見る事ができ、私はその映画を観ました。皆さんはそれを想像できますか？実際にやっているのですよ！トレイシーはどこから始めていいのかわからなかったのではないかと思っています。しかし彼女はその方法を見つけました。

私とトレイシーは生涯の友になりました。

どんな動物も、苦しむ為に生まれたものではありません。それはまるで豚にとって巨大版のベッドラムのようなものです。豚が病気や、死、狂気となるのです。

人間がこんなことを、わざわざする必要はありません。

彼女のウェブサイト www.pigpledge.org を見て下さい。—彼女はアメリカの一企業がアメリカで生産される豚の25%以上をコントロールし、それが今ではイギリスやヨーロッパに拡張して来ていることを説明しています。そこではイギリスが輸入する96万トンの豚肉のうち70%が、イギリスが定める基準を満たしておらず、それでも尚、小売業者は輸入された肉に、ここイギリスで生産されたかのように「イギリス製」と書かれたラベルを貼っていることが推定されています。

私はトレイシーに、私たちには何ができるの？と尋ねました。

「一番大事なことは、工場式農場からのお肉を食べないこと。そしていつもこのお肉はどこから来たのか、スーパーで買おうが、レストランやカフェで食べようが、聞く事ね。私と一緒に、pigpledge.org/take-the-pledge にサインして、工場式農場のお肉をボイコットしましょう。」

A Farms Not Factories campaign

@ pigbusiness #PigPle

